

## 子どもの「いのち」を守る強化月間 点検表・スローガン作成による運動の拡大

### 『学校・家庭・地域で子どもの「いのち」を見守り、みんなで点検し「いのち」を守るコミュニケーションを拡大しよう』

「いのちの教育」は、各学校において『Plan（計画）& Do（実行）』されております。しかし、最近の子ども達の生命に関わる事故・事件をみると、子ども達の「いのちの危機」はどの学校でも起る可能性があると考えられます。

そこで、**管理職に『Check（点検）& Action（再構築）』**をお願い致します。

子ども達の「いのち」を守るため、学校や家庭・地域での活動を、別紙の「点検表」を参考にして点検してください。また、学校の事情に即して、「いのち」を守る強化月間の運動の実を上げる意味で、例示のスローガンを参考に、学校独自のスローガン作成と各家庭でも運動趣旨が徹底するように、例示スローガンを配布いただくよう願います。

なお、従来、スポーツ保健課でお願いしている「学校安全強化旬間」は、**子どもの「いのち」を守る強化月間に位置付けて一元化し、6月の強化月間期間内で不審者対応に焦点化した取組み**を願います。また、教職員へのサポート体制の「ゆとり・倫理観・健康状況等」も取り入れ、学校で子どもの「いのち」を守る主役である「教職員」の資質・意識・健康面の点検の取組みも願います。

この点検は**管理職による「いのちを守る未然防止対策・再構築のための点検」**としてご理解とご協力ください。

#### <再点検のポイント>

管理職が、『自ら』『マイナス要因排除』『プラス要因育成』の「いのち」を守る点検により

1. 生徒・教職員の動きに「危険・危機」を見つける手立てができていないか。
2. 既存の運営組織や校務分掌が十分に安全に配慮され、機能しているのか。
3. 教職員の心身健全なフォローアップやサポート体制ができていないか。

#### <強化月間に、是非、実施して欲しいこと>

##### 1 事故・事件時の初動体制と校内及び関係機関への連絡ルートの整備

・「知らないで陥る危機」と「知っていてもやらない危機」にご注意を。

##### 2 児童生徒理解と個人面談

- ・心に悩みを持ち、自傷行為や自殺を考える子どもが増えています。
- ・やりたいことや頑張っていることを認めて欲しい子どもがいます。
- ・背中を押して欲しい、手を引っ張って欲しい子どもがいます。
- ・面接者は担任だけでなく、養護教諭・主任・顧問など、適材適所で。

##### 3 組織や分掌の機能状況確認

- ・機能が高まると、校内の歯車がうまく噛み合うようになります。
- ・機能が高まり、職員が協調すれば、子ども達に良い影響を与えます。
- ・組織や分掌が機能しているか、もう一度確認を。

##### 4 不審者対応の「学校安全強化旬間」での総点検

- ・登下校の悩みや危険個所の情報を共有し、解決しておくことが重要です。
- ・教職員も入って、学校・地域との情報交換を。
- ・特に、登下校時の女子児童生徒がねらわれます。
- ・具体的な対応や手だてを考え、他校にも発信と連携を。
- ・学校の最寄り駅は「危険・危機」が見えやすい場所です。
- ・地域住民とも顔見知り。

##### 5 教職員のフォローアップ（管理職）と、サポート体制の整備

- ・教職員の意欲・活力・倫理観の高揚は『最大の力』です。
- ・楽しく仕事をこなす姿勢、明るい雰囲気をつくる心掛けを。
- ・ゆとり創造運動が機能し、教職員が心身の健康を保持する体制をつくる。

子ども達を見守る人を増やし、子どもへの関心を高めよう。学校・家庭・地域の方々の子どもの「いのち」を守るコミュニケーションを広げよう！